

第7部 長期ビジョンを着実に実現するための指標のあり方

1 改訂後のビジョンに対応した新しい指標の考え方（地域力指標）

〔豊かさを明らかにする指標〕

- 改訂後のビジョンのフォローアップのため、「美しい兵庫指標」を再構築し、経済的指標だけでなく、環境や社会の側面から地域の豊かさと、地域がもつ豊かさに結びつくポテンシャルを明らかにする「地域力指標」づくりに取り組む。

〔県民参加型の指標づくり〕

- 各地域の強みとなる地域資源を住民主体で発掘・再発見し、地域づくりの気運醸成につなぐため、地域資源数え上げ型の指標などを新たに具体化し、県民意識や統計と組み合わせる指標の体系化を検討する。

2 地域力指標のイメージ

(1) 地域の豊かさを表す指標群

- 経済的指標だけでなく、環境や社会の側面から地域の豊かさと、地域が持つ豊かさに結びつくポテンシャルを明らかにする指標づくりを行う。
- 改訂後のビジョンの12の将来像と実現方向を具体的に示すシナリオに沿った評価手法の開発と評価項目の設定を行い、指標を作成する。
- 指標を支える個別のデータについてカテゴリー化・階層化を行い、分かりやすいデータベースを構築する。

〔検討課題〕

- 豊かさの構成要素として適切な指標の選定や、既存指標の組み合わせなどによる新たな指標づくり
(例) 太陽光・風力など再生可能エネルギー発電の総量、持続人口(定住人口と交流人口の合計)
- 世代別(子ども・若者、壮年、高齢者)などライフステージ別の生活の質を測る指標づくりなど

【ビジョンの将来像に対応する指標の例】

社会的な結びつきや健康、生活を取り巻く文化や自然環境、災害などリスクへの安全安心、しごとの安定性や産業活力など、改訂後のビジョンにおいて提示する将来像に対応した指標を、県民意識や統計などを用いて設定する。

改訂後のビジョンの将来像		考えられる評価項目の例
創造的 市民 社会	人と人のつながりで自立と安心を育む	女性が生涯に生む子どもの数 多世代のふれあいの機会の多さ(三世帯同居世帯の割合)
	兵庫らしい健康で充実した生涯を送れる社会を実現する	健康寿命(日常生活を自立して元気に過ごせる期間) 芸術文化活動に参加して楽しむ人口
	次代を支え挑戦する人を創る	地域づくり人材の多様性や数 子どもが伸び伸びと育っているという実感度
しごと と 活性 社会	未来を拓く産業の力を高める	オンリーワン技術を持つものづくり企業の数 産学連携を行っている企業の数
	地域と共に持続する産業を育む	農林水産業の地産地消の割合 外国人旅行者の入込数
	生きがいにあふれたしごとを創る	社会貢献型のしごとの数 しごとによりがいを感ずる度合い
環境 優 先 社会	人と自然が共生する地域を創る	新規就農者の数 生活の利便性よりも自然を守ることを重視する度合い
	低炭素で資源を生かす先進地を創る	太陽光・風力等再生可能エネルギー発電の総量 移動人口に対する公共交通機関、徒歩・自転車の利用者の割合
	災害に強い安全安心な基盤を整える	住んでいる地域の災害に対する体感的な安全度 日常生活での災害に対する備えの程度
多彩 な 交流 社会	地域の交流・持続を支える基盤を整える	持続人口(定住人口と交流人口の合計) 地域内での資金循環の活発さ
	個性を生かした地域の自立と地域間連携で元気を生み出す	地域を越えて結ばれている地域資源の数 二地域居住をしている人の多さ
	世界との交流を兵庫の未来へ結ぶ	母国と兵庫を結びながら活躍している外国人の数 外国人県民にとっての暮らしやすさ

具体的な指標設定については今後検討

(2) 地域ビジョンと連携した地域資源数え上げ型の指標づくり

- ・ 地域の伝承文化や歴史、ライフスタイルなどの地域資源を住民の参画と協働により数え上げ、地域ごとの強みを浮き彫りにできる指標を検討する。
- ・ 指標の把握プロセスを重視し、地域資源の発掘・再発見を通じて地域づくりの成果・進捗度を地域で共有し、新たな地域づくりに反映する。
- ・ 地域資源数え上げのプロセスについてはウェブ上で情報発信するほか、数え上げられた地域資源については、地域の豊かさを表す指標として指標データベースに登載予定。

〔検討課題〕

- ・ 地域ビジョンのめざす方向性を踏まえた数え上げ対象の選定
- ・ 住民主体の地域づくりの気運を醸成するしかけづくり
- ・ 地域ビジョン委員を中心としたワークショップの開催など、地域資源の質的向上を図るしかけづくり

【地域ごとに今後検討していく地域資源数え上げ型指標の例】

- ・ 里山を拠点とした活動団体・グループ数
- ・ 子育てネットワーク数
- ・ 都市部からの移住者の数
- ・ 農水産物直売所の数
- ・ 祭りの数
- ・ 県際交流イベントの数
- ・ オープンガーデンの数
- ・ ジャズ演奏を聴くことができる店の数

(3) 地域の豊かさを柔軟に可視化できるツールづくり

- ・ 県民が地域づくり活動に取り組む際の道標となるしくみとして、指標データベースの中から県民自らが自由な視点で指標データを選んで組み合わせ、地域の豊かさや課題を多面的に把握できるツールをウェブ上で提供する。
- ・ 「豊かさ」の捉え方は個人によってさまざまであることから、構成要素間の比重も自由に設定できるようにするなど、個人の価値観に応じたカスタマイズを可能とする。

〔検討課題〕

- ・ 県民個々のニーズに応じたデータの表示方法（例：グラフなどの活用） など

3 地域力指標づくりの進め方

- ・ 指標づくりにあたっては、長期ビジョン審議会や地域ビジョン委員会のほか、地域別ミーティングの開催などにより議論を行いながら、指標の具体化を進めていく。

参考資料 2040年の兵庫の暮らしのイメージ

「12の将来像」とその実現のための「12の協働シナリオ」をわかりやすく示すため、めざす将来像が実現したときの2040年の兵庫の暮らしのイメージを、地域類型の視点と多様な県民のライフスタイルから描いた。

- 1 地域類型の視点から見る2040年の兵庫の暮らし
 - (1) 多世代が交流し、国内外から人が集う都市・郊外の豊かな暮らし
 - (2) とともに支え合い、次世代に引き継ぐ多自然地域の豊かな暮らし
 - (3) 多様な地域と地域、人と人が交流・連携する姿

- 2 多様な県民のライフスタイルから見る2040年の兵庫の暮らし

- 1 (1)～(3)に描いた暮らしの姿を、年齢、女性など多様な県民のライフスタイルから再構成した。

1

(1) 多世代が交流し、国内外から人が集う

都市・郊外の豊かな暮らし



(単身高齢世帯が増加するなかでの地域の取組)

都市や郊外では単身世帯が約4割を占めるようになった。そのほとんどが高齢者であり、当初は、孤立感からくる不安を感じていた。

しかし、ケアが必要な高齢者の不安は、LSA（生活援助員）による24時間の見守り体制や、元気な高齢者による日常生活支援などの住民同士の支え合いのしくみが充実する中で解消されてきた。終生、自宅で過ごせるようになり、もはや単身で孤立した高齢期という生活像はない。

高齢者は、生活支援や社会人向け教育サービスなど生活に密着した産業や、診療所、グループホームなどの医療・介護サービスが整った、コンパクトで安心できるまちで、ゆとりのある暮らしを送っている。

(ストックを活用した近居・隣居で支え合う家族)

県民が国内外へと活動範囲を広げ、移動型の住まい方が見られる一方で、生活環境に優れた兵庫に根を下ろし、家族で支え合って暮らしたいという希望を持つ人も多い。

こうした家族は、人口が減少し住宅の需給が緩む中で、地域が主体となった優先斡旋などのしくみを利用している。三世代同居は減少するものの、歩いて通える近さに住む“近居”や隣近所に住む“隣居”など、離れていても支え合う住まい方を実現している。

（兵庫らしい生涯健康な暮らし）

さまざまな世代の人々が、地域団体やNPOのプログラムに参加するなどして健康的な生活習慣づくりやスポーツ活動に取り組み、健康でいきいきとした生活を送っている。

病気になっても、高度専門医療機関と地域のかかりつけ医などが連携し、地域の安心を支える質の高い医療基盤が確立されている。高度専門医療機関では、神戸の医療産業の集積と兵庫の科学技術基盤を活用したオーダーメイド型医療も受診できるようになっている。

（空き空間を生かした多世代交流の場）

地域のさまざまな世代が、空き住宅などを地域の食堂やリビングのように活用し、食事をしたり、おしゃべりを楽しんだり、時には悩み事を話し合う場として、集っている。こうしたいわば“広場”は、空き住宅の所有と利用の分離が進むことで実現している。

（交流から生まれる地域のしごと）

地域のさまざまな世代が、地域の“広場”でのコミュニケーションを通じて地域課題への関心を高め、コミュニティの中で日常生活サービスなどの社会貢献をする者や、それをビジネスとして手がける者も出てきた。

他にも、地域づくり活動を支援するしごとや、自治会運営をサポートするNPOの運営、介護や買い物、通院の移動の手助け、放課後の子どもの預かりをはじめとするさまざまな活動が行われている。

障害のある人も、空きスペースを活用して障害のある人とない人が一緒に運営するパン屋さんなど、地域の中で増えてきたしごとの場で個性を生かしていきいき働いている。

（地域全体に支えられる子育て）

高齢者だけでなく、子どもたちや子育て中のお父さんやお母さんが、“広場”の心地よさに、集まって来るようになった。子どもの数が少なくなる中で、一緒に遊んだり、悩み事を相談したりすることで、子育て世代だけでなく、地域の人々が一緒になって子どもの成長を見守りはぐくむ、地域全体での子育てがより一層進んでいる。

（若い時からの複線型のしごとスタイル）

若者の中には、これまでのように大学新卒で会社に就職するのではなく、地域のしごとに就職する者も増えつつある。地域で課題解決に取り組むしごとの経験を積みながら、地域経営の手腕や業績を買われ、民間企業や行政で働くなど、異なる領域を行き来する多様な働き方が定着し始めている。



（兵庫を支える基幹産業、オンリーワン企業）

鉄鋼や機械などの基幹産業が、高い技術力を生かして高付加価値の素材や環境プラントを開発するなど、成長分野に対応した技術革新に取り組み、成長を支えている。

また、優れた部品・加工技術やノウハウを背景に、世界市場で大きなシェアを持つオンリーワン企業が県内の各地に数多く立地し、世界のサプライチェーンを支えている。

（世界、アジアに貢献する兵庫の技術）

次世代スーパーコンピュータや播磨科学公園都市のX線自由電子レーザーを活用して地域の産業も様変わりした。兵庫発の次世代高性能電池は、充電時間を劇的に短縮すると同時に走行可能距離を格段に伸ばし、世界的な電気自動車の普及を加速化した。

これに加え、発電効率が極めて高い太陽光パネル、気候変動に対応した農業増産技術、難病を克服する創薬・医療技術の開発など、アジアの課題解決に貢献する多くの基盤技術や知識が兵庫から生み出されている。省エネや、高齢者や障害のある人の扱いやすさを追求した製品など、既存技術の徹底改良で生み出されたモノと併せて、兵庫の技術力が存在感を発揮している。

（安全・安心の拠点）

阪神・淡路大震災以来の絶え間ない取組により蓄積された、災害から地域社会を効果的に復興させる知恵を生かし、“HYOGO”はアジアの安全安心の拠点となった。

既に起こった東海・南海・東南海地震も、適切な被害予測、ハード面の備えに加え、子どもの頃からの防災教育や歴史的な経験に基づくハザードマップ、地域ぐるみの共助で被害を最小限に抑え、早いピッチで復興を成し遂げたことに世界が驚嘆したことは記憶に新しい。

（国内外からの人材の集積）

生活支援産業や医療、安全・安心の地域を創る産業が、兵庫の各地域で成長することで、国内外から多彩な人材が集まっている。

外国人県民は、地域での交流プログラムや夏祭りなど伝統行事への参加を通じてコミュニティに溶け込み、また、日本の生活や文化に触れる機会を楽しんで、兵庫暮らしの魅力を大いに感じている。まちの標識や医療機関、非常時の情報提供の多言語化も進み、子どもの就学支援ガイダンスなども充実していて、家族で暮らす不安や不便を感じることはない。

兵庫の産業の魅力と生活環境の良さから、国内外の企業の立地も相次ぎ、また、兵庫で学びたい留学生も増えた。創業を支援する資金も国内外から流入し、チャレンジする気風が根づいている。日本の若者の間でも、一頃指摘された内向き思考はなく、どんどん海外に出ていくようになっている。



（クリエイターが集う都市郊外）

国内外のクリエイターやアーティストが、緑豊かで都市とのアクセスに優れた都市郊外に移り住むことが多くなった。クリエイターに関連する仕事も郊外で増え、今では都市と郊外との間の行き来が盛んになっている。

都市から郊外に働きに行く人も増え、一時超高齢化した郊外の人口構成のバランスは改善し、コミュニティに活気が戻ってきた。

（“生産年齢人口”という言葉に意味がない生涯現役社会）

たくさんの元気な高齢者がさまざまな場面で活躍している。企業では、長年の経験や知識を買われ、フルタイムの就業から週2日などゆとりある働き方に変えつつ、継続して勤務し、若者の育成に取り組んでいる。

地域でも、元気な高齢者が、要介護者の生活支援サービスなどの起業に挑戦したり、高齢者の生活を法律面でサポートする市民後見人として従事したりするなど、人生経験や社会的な信用を生かして活躍する人が増えている。

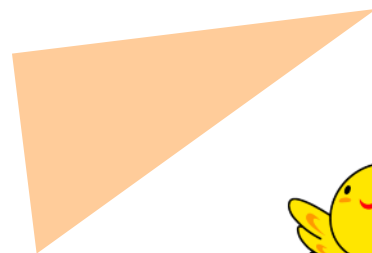
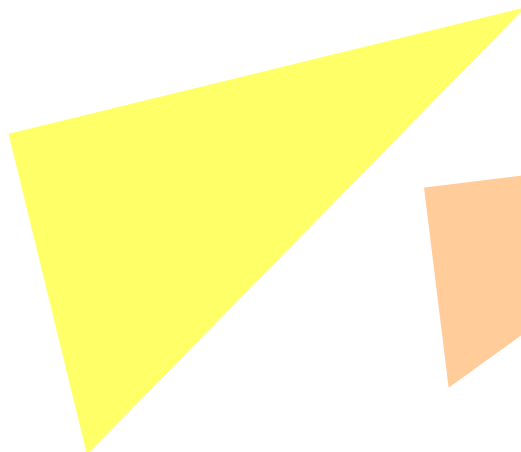
郊外では遊休地を活用した近郊農業が盛んで、その担い手には第二の生きがいとして本格就農を始めた退職後の高齢者なども多い。同じ高齢者の嗜好を研究した特産品開発や、NPOと連携した都市での直売所や宅配などにアイデアを発揮し、販路拡大に取り組んでいる。

（兵庫スタイルの豊かな暮らしとアジア交流圏の形成）

豊かな自然や歴史、文化や、先端科学を生かして活躍できる環境に恵まれ、多彩な人材の集積が進む中で、しごとと生活の両立も急速に広がり、定着している。

こうした兵庫スタイルにあこがれ、新たな定住先として兵庫を選ぶ人が増えている。それに伴い、生まれる子どもの数も増加してきた。人口減少のペースは当初想定したよりも緩やかになっている。

兵庫で生まれたライフスタイルや、多文化が共生するコミュニティ、そして世界とつながるネットワークが、世界から評価されている。同時に、アジアと兵庫の間でさまざまな人、知恵、モノが行き交い、共生していく圏域が生まれつつある。



1

（2）ともに支え合い、次世代に引き継ぐ

多自然地域の豊かな暮らし



（若い世代が移住）

多自然地域の農村では、少子化と若者の都市部への流出などにより、人口減少が進み、空き家や休耕田が目立ってきていた。しかし、農や自然に興味を持つ若い世代が、空き家を活用した親族との近居、知り合い同士での隣居などによって、移り住んでくるようになった。

こうして、UターンやIターンで移住してきた若者は、古民家を改修して暮らすなど、自然や風土を暮らしの中で味わえる豊かさを実感している。

（見守りや減災など支え合う暮らし）

人口減少が進む多自然地域では、高齢化が進み、お互いの安否確認さえ危うくなりつつあったが、地域住民たちが顔なじみや知り合いの声かけに取り組み、また、情報通信技術を活用した地域生活見守りシステムを導入することで、地域で支え合える共助のしくみが構築されてきた。

また、高齢者への聞き取りや歴史的な経験に基づく災害危険箇所のマップ作成、災害時要援護者への共助網の再構築などにより、地域の減災力が高まっている。

（日常生活サービスの確保）

廃校となった小学校の校舎などを活用して、診療所、福祉施設、商店、銀行窓口など生活維持に不可欠なサービスの拠点が、地域住民と行政、企業の連携で確保されている。

日用品や食料品等の宅配サービスも、この拠点を中心に住民の手で運営されており、都市から移住してきた住民も、都市での視点などを生かしながら一緒になって取り組んでいる。

（医療サービスへの不安を解消）

地域の診療所や病院が少なくなり、中心都市の総合病院に集約化されたため、特に高齢者や障害のある人、子どもを持つ親などは、医療サービスに不安を抱いていたが、中心都市へのバスや鉄道などの公共交通が確保され、診療所と総合病院をつなぐ情報通信技術の活用と併せて、適切な医療を受けることができる環境が整備されている。

また、高齢者や傷病者が日頃から情報通信機器を使った健康管理システムを利用できるようになり、かかりつけの医療機関や親族と健康情報を共有することで不安が解消されている。広域的な医療体制も充実し、緊急時には、救急ドクターヘリも利用できるようになっている。



（地域での移動手段の確保）

地域に公共交通網がないところでは、地域が主体的に運営するコミュニティバス会社が移動手段を担っている。バスの運行コースは、病院前や商店街、まちなかの循環など、暮らしのニーズを踏まえて地域住民たちで決めているため、運転免許を返納した高齢者も不便さは感じていない。また、こうした地域での移動手段を補完するため、地元企業も、社員や顧客用の送迎バスをボランティアで地域住民向けに運行している。

子どもの減少で学校の統合が相次ぎ、小中学生の通学距離は長くなる傾向にあるが、地域運営のコミュニティバスとの共用によるスクールバスで安全に通学している。

（地域ならではの子育て環境）

子どもたちは、学校の授業で多様な価値観をかん養し、社会との関わり方を学んでいる。また、地域住民との交流学习も盛んで、高齢者やNPOなどから、伝統的な遊び体験や地域の歴史、食文化などを学び、地域への愛着が自然と育まれている。

こうした交流の影響で、子どもたちと地域住民との距離が縮まり、地域住民が子どもたちを見守り育てる好循環が生まれている。

（村移りと広域的なむらづくり）

人の減少や偏在により維持が困難になった集落の中には、住民自身の選択で、近隣集落へ集落ごと村移りしたところもある。

一人だけの移住では不安だったが、集落の知人たちとともに移住したことで、移住先の集落でも地域のつながりが築きやすく、安心を得られた。旧集落は農家民宿や滞在型農園などとして活用されており、移住者のうち何人かは旧集落への通い農を行っている。

また、近隣の集落同士で連携し、村移り後の空き空間も活用し、広域的に村の機能を維持しようとする動きも広がっている。住民と地域外の企業とが提携して、バイオマスや小水力、ソーラー発電所をつくり、食とエネルギーの自立が高まっている。

（獣害対策も広域的に対応）

高齢化や人手不足に伴い、奥山や里山の管理が行き届かなくなり、シカ、イノシシなどによる農産物への獣害が深刻化した。集落の住民たちは、獣害など同様の課題を抱える隣県の村とも連携して、山すその伐木に取り組むなど、野生動物との緩衝帯整備を広域的に実施して、農作物被害を減少させることに成功した。



（地域資源を生かした広域的なツーリズムの創造）

地域資源の価値を再認識する動きが広がっている。はじめは、地域の有志が集まり、インターネットやイベントを通じて、古道を歩くフットパスなどの情報発信をしていたが、今では、旅行代理店とも連携が生まれ、県内や隣県からの歴史スポットを巡るツーリズムが盛んになり、地域ににぎわいが戻ってきている。

（高齢者の知恵と経験の若者への伝承による農林水産業の活性化）

集落の高齢者が、長年の技術や経験を次世代に伝承する場や、既存の農林漁業者から実践的な技術を学ぶことができる体験塾、起業を支援する中間支援NPOの支えもあり、農林水産業にチャレンジする若者が増えている。若者たちは、高齢者の経験と自らのアイデアを融合させながら、生産性の向上や、農漁村のにぎわいづくりに貢献している。

次世代の人材の育成が進み、農林水産業の担い手が厚みを増す中で、農の6次化や販売網の開拓を手がける人材も育ち、兵庫全体で食の自給力、供給力が高まってきている。

（放棄林の再生と新しい自然エネルギーの活用）

多自然地域に暮らす若者が増えるとともに、森林資源の魅力と適切な管理の必要性に気づき、森林管理ボランティアなどに参加する層が増えている。都市で建築設計を営む技術者が、放棄林の再生と木材の県産県消に取り組むなど、都市と農村をつなぐ動きも広がっている。

良好な県産木材を生かした家づくりも人気となり、間伐や廃材からできる木チップは地域のバイオマス発電に使われている。

（住民が運営する地域のしごと）

さまざまな世代の女性たちが集まり、近所の公民館兼食品加工場で働きながら、地域の伝統的な加工食品の製法を、次世代の女性たちに引き継いでいる。ここで作られた加工食品は特産品として販売しているほか、高齢単身者向けの弁当宅配サービスも運営している。配達の際には、高齢者の見守り活動にも取り組み、地域の安心づくりに貢献している。

また、先祖伝来の家に暮らす夫婦は、自宅を田舎暮らし体験ができる民宿に改造し、手作りの温かいもてなしで人気を得ている。最近では、宿泊客により深く地域のことを知ってもらおうと、住民たちとともに、地域の歴史、風土の勉強会を始めた。

（多自然地域で成長するオンリーワン企業）

精密機器分野などのオンリーワン企業が、災害や大規模事故に対する危機管理やリスク分散の観点から、研究拠点や生産施設を都市から多自然地域に移転させるケースが増えている。集落からもそうした企業に通勤する若者も多く、地域の雇用と経済に好影響を与えている。

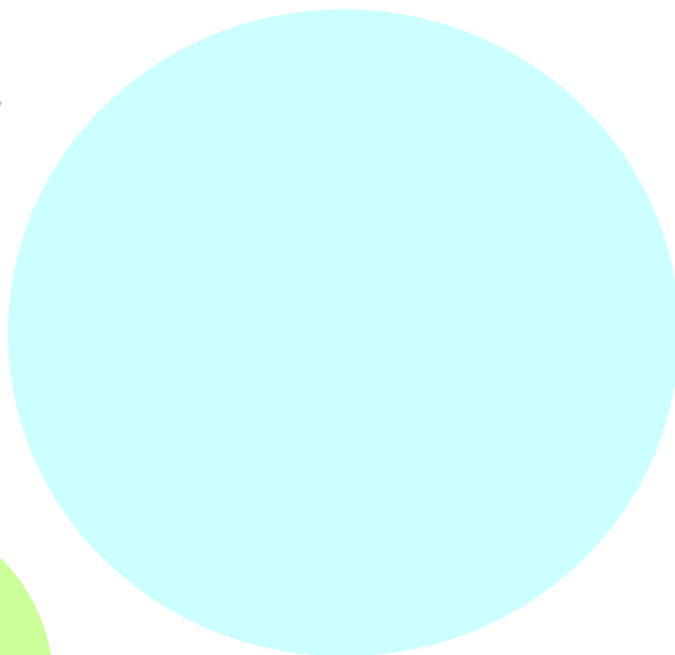
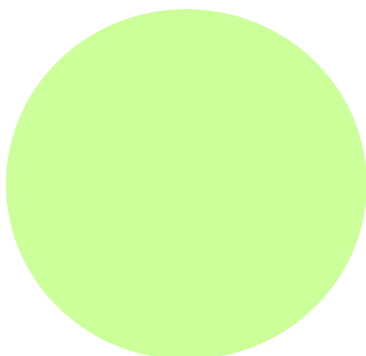
（外部との連携が集落の再生を後押し）

都市部のNPOなどが、集落と連携して農漁村体験に取り組んでいる。農村地域では、田畑のオーナー制や農業体験、漁村地域では養殖オーナーなどが人気であり、都市に暮らす人たちも、多自然地域を身近に感じるようになってきている。夏休みには、就農体験や地引網体験に訪れた親子連れなどが民家に宿泊し、夏祭りに一緒に参加するなど、村のにぎわいが取り戻されている。

（アジアとつながる多自然地域）

ソーシャルネットワークサービス（SNS）など、情報通信技術を活用したコミュニケーションのグローバル化により、集落単体で世界に取組を発信することが容易になっている。兵庫の地域再生・農業再生の取組、安全な県産品づくりが、国内をはじめ、アジアなどの海外の注目を集め、ノウハウを学びに来る外国人も多い。

地域に暮らす人々の間にも、集落で育んできた技術やノウハウをアジアや世界中の人々と共有し、人や知恵が交わる新しい共生圏をつくらうという意識が生まれている。



1

（3）多様な地域と地域、人と人が

交流・連携する姿



（まちからむらへ）

人口減少が進み、県内の高齢化率が4割に近づく中で、ある集落では生活機能の低下や耕作放棄地の拡大、荒廃する森林の維持管理など、さまざまな苦勞を抱えていた。

しかし、都市と集落を結ぶ社会資本の整備が進み、集落やNPO、企業、行政などの連携で、地域人材の育成や就農・集落居住体験、都市での県産農林水産品の直売など、都市と集落の産業をマッチングする機能が整うとともに、それぞれの地域の良さや人材を結びつけながら、地域の再生に取り組む人が増えている。

（高齢者を主役にして生まれる人の交流）

都市の住居を生かしつつ集落に通い、週末農業や森林づくりに生きがいを見だし、菜園付住宅や滞在型の市民農園（クラインガルテン）での二地域居住を楽しむなど、都市からの集落への人の流れが生まれている。

ある退職後の高齢者は、多自然地域の集落再生に取り組んでいるNPOによる募集を通じて、クラインガルテンに入居した。集落の住民たちが丁寧にノウハウを教えてくれたため、やりがいを感じている。

今では、新旧の住民の交流が深まり、むらづくり、行事の運営などにも一緒に取り組んでいる。都市の高齢者をターゲットにした地場産業の新しい販売戦略など、都市住民の視点からのアイデアも取り入れながら、持続性のある集落が実現しつつある。

（多自然地域に移転する企業の増加と多世代の交流拡大）

自然豊かな立地環境や、災害に備えたりリスク分散などのため、多自然地域に移転する企業や工場が増えている。企業の研究施設や大学のサテライトも作られ、若い学生や技術者などが集落に移住する例も増えている。

ある学生は、多自然地域に居住して研究活動に取り組みながら、休日には集落に入り、住民と一緒にむらづくりに励んでいる。

（都市と農漁村で交わりながら働く）

都市と集落の交流の広がりや、人々の働き方にも変化をもたらしている。例えば、デザイン、ソフトウェア、設計、ライターなど創造的な分野で、情報通信技術を生かしつつ、集落に拠点を置いて、のびのびと働く人が増え、伝統工芸とファッションのコラボレーションなど、地域資源に新しい光を当てた商品を生み出している。

また、壮年層の中には、サラリーマン生活を早めに切り上げて農家民宿を営んだり、地元の食材を生かしたレストランを開業する人が増えるなど、ライフスタイルに合わせた住まい選びが定着している。

（地域課題を解決するビジネスの活性化）

都市でのノウハウを生かして、集落の課題に取り組むNPOや企業も生まれている。

あるNPOでは、自治会運営のノウハウを生かしながら、集落の住民と相談しつつ、集落運営のサポートに取り組んでいる。

また、生活支援、医療・介護などを広域で担いながら、一人ひとりのきめ細やかなニーズに寄り添うサービスがビジネスとして成長し、集落の生活機能を支えている。

（上下流連携で共に守る豊かな森林・河川・海）

河川の上流地域では、高齢化による人手不足で森林の管理が困難になっていたが、下流地域の住民との交流が深まる中で、共に流域の自然環境を守り、災害を防ぐ意識が共有されるようになった。都市住民や事業者、漁業従事者などが、上流地域の住民と協力して森林の間伐などに取り組むことで、川で結ばれた豊かな森林と漁場を保全するとともに、下流での洪水などの自然災害を抑えるしくみが生まれている。

（安全安心の先進地になる多自然地域）

集落では安全安心な食を求める消費者のニーズに応えた県産品づくりが広がり、都市で直売されている。このような「県産県消」の広がりにより、農林水産業は地域の持続を支える成長産業に生まれ変わっている。

また、多自然地域にバイオマス、ソーラー、水力など再生可能エネルギーの拠点が作られ、エネルギーの自給自足を実現する先進地になっている。さらに、都市へのエネルギー供給や、研究開発などを通じて、地域間のつながりが増している。

（県域を越えて補い合う暮らし）

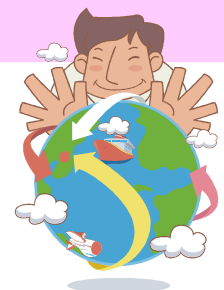
地域間のつながりが拡大し、より広範囲の、県域を越えた補い合いが生まれている。企業誘致や就業支援に共同で取り組む市町村が増え、住民がアイデアを出して、同じテーマの地域資源をつなぐツーリズムを生み出すなど、都市と集落それぞれの地域力を高めている。

（地域から世界につながる）

地域資源をつなぐツーリズムの広がりで、都市と集落を長期間周遊しながら滞在する外国人観光客が増え、農家民宿などを運営する住民との交流が深まっている。

また、国際機関の集積を生かしたコーディネート機能を活用して、同じ課題を抱えたアジアなどとの交流、連携が深まり、国際的なスケールで活躍する人材が多数輩出されている。

都市と集落がつながりながら共に元気を生む事例は、兵庫ならではの取組として、人口の減少や偏在が進みはじめたアジアから注目されている。



2

多様な県民のライフスタイルから見る

2040年の兵庫の暮らし



（家族・地域の絆の中でたくましく育つ子ども）

バランスの取れた仕事と生活の充実が進み、家族で過ごす機会が増え、家族の絆を実感できる子どもが増えている。また、子どもたちが日々地域の中で生き生き遊び、多世代と交流しながらさまざまな体験ができる機会が増え、多様性を学んだり、身に付けたりしている。

学校と地域の連携により、子どもが、高齢者やNPOなどによる伝統的な遊び体験や、祭りなどへの参加を通じ、地域の歴史、食文化などに触れ、地域への愛着や誇りを自然に育んでいる。

また、地域での職業体験学習や海外体験などを通じて、地域でのしごとや海外へのチャレンジなど、具体的な将来の目標を持ち、さらに自分の力で課題を見つけ出し、解決できる力を身につけながら、たくましく成長している。

（進取の気性で次代を担う若者）

自然豊かな暮らしや農林水産業、地域資源の活用に興味を持つ若者が増え、多自然地域に立地するオンリーワン企業や再生可能エネルギーの拠点などでの就業をめざして集落に移住するなど、従来の価値観にとらわれない主体的な生き方の選択ができるようになっている。

若者たちの間に、地域づくりや社会貢献型のしごとへの就業、海外へのチャレンジなど進取の気性が広がるとともに、ボランティアやインターンシップなどの活動が定着し、それらの活動の経験が大学入学の資格となるなど、社会で適正に評価されるしくみが整うことで、将来への希望が生まれている。兵庫が国内外の多彩な人材が集まる“アジアの人材育成拠点”となり、しごとと生活が両立した“兵庫スタイル”の豊かな暮らしが、世界の注目を集めている。

（多様なライフスタイルの中で生きがいを実現する壮年層）

兵庫県がものづくりを支える知の拠点“HYOGO”としての役割を果たす中、壮年の人々は、世代間交流から生まれる地域のしごとや、主体的な人生設計に基づく産業の中核として活躍している。同時に、多様就業型ワークシェアリングなど、ライフスタイルに応じた多様な働き方が普及する中で、しごとと生活の両立を果たしている。

また、民間企業や行政、NPO、就農、地域経営など異なる領域を行き来する複線型のライフスタイルが定着し、多自然地域での広域的なむらづくりに参画したり、都市での自然保護活動に参加するなど、地域づくり活動の新たな担い手として、さまざまな場面で活躍している。

（生涯現役で自立し元気に暮らす高齢者）

元気な高齢者が、経験を生かして、地域づくりや社会貢献、ものづくりや農林水産業などの分野で活躍し、もう“生産年齢人口”という言葉は使われていない。都市と集落の二地域居住や週末農業などを通じて、次の生きがいを見いだす高齢者も多い。

都市や都市郊外に暮らす高齢者は、介護が必要なときは、地域の小規模多機能型サービス拠点のサポートを受けながら、住み慣れた自宅で過ごせるようになっている。また、多自然地域の高齢者は、救急ドクターヘリ、コミュニティバスなども活用しながら、必要なときに適切な医療機関を受診できる。

単身世帯の増加などから多くの高齢者が感じていた将来への不安は、地域住民による見守りなど、共助のしくみの中で解消されてきた。地域に関わらず、情報通信技術も活用した医療システムの革新により、兵庫らしい健康な暮らしが実現している。

（障害の有無にかかわらず個性を生かして活躍）

地域の中で、特例子会社制度などを活用した、働きやすいしごとの場が増え、障害のある人たちも、個性を生かしながら地域で活躍している。また、こうしたしごとの創造に取り組むNPOや企業も増えている。

また、兵庫発のものづくり技術を生かしたユニバーサルデザイン製品が多数生みだされ、移動が困難な人たちも、コンパクトでバリアのないまちで、暮らしやすさを実感している。

（安心してしごとと育児を両立しさまざまな場で能力を発揮する女性）

性別にかかわらず、能力を生かして働くことができる環境が整い、さまざまな職場や地域づくり活動で女性が活躍している。企業などによる複線型のライフスタイルづくりの取組が社会的に評価されるようになり、育児期間中のキャリアアップや、育児がひと段落した女性が再びしごとで活躍できる社会が実現している。

少子化の中で、若い夫婦世代が子育てに不安を感じることもあったが、今では性別にかかわらず育児休暇を取得しやすくなるなど男性の育児参加が進み、また地域ぐるみで子どもを見守るしくみができていることから、安心して子育てとしごとを両立できている。

また、多世代の女性たちが、商店街の空き空間などを利用して、特産品づくりや、高齢単身者向けの弁当宅配サービス、高齢者の見守り活動など、地域のしごとに取り組み、地域の安心づくりにも貢献している。



（兵庫に惹かれ、ともに地域社会に貢献する外国人県民）

ユニバーサル化が徹底された標識案内、多言語対応の医療機関など、外国人県民にも暮らしやすいまちが実現している。

ものづくりやバイオ、環境・エネルギー技術を学ぶために、多くの留学生が訪れ、空き住宅やルームシェアの斡旋などに取り組む大学や企業、NPOの手厚い支援を活用している。中小企業が求める人材のマッチングを生かし、兵庫にしごとの場を見つける留学生も多い。

また、外資系企業の社員や、技術者、研究者の中には、外国人県民のための教育環境や、地域住民による日本語教室などが充実し、子どもの教育面での不安も解消されていることから、兵庫に住み続けることを選択する人々が増えている。

地域ぐるみで取り組む多文化共生が進み、外国人県民も、地域づくり活動にも積極的に参画するなど、地域社会の一員として貢献している。



2 1 世紀兵庫長期ビジョン見直しの経過

全県ビジョン

全県ビジョンの見直しにあたっては、平成 19 年度から、委員会や研究会などにおいて専門的な観点からの意見交換を重ねるとともに、さまざまな活動団体などの活動の場を訪問し、ヒアリングを重ね、時代潮流の変化や地域の課題群の掘り起こしを丹念に行った。

さらに、平成 21 年度から、本格的な見直しに着手し、兵庫みらいフォーラムの開催などを通じて幅広い県民意見の集約を行うとともに、長期ビジョン審議会での審議により、全県ビジョン改訂案の策定を進めた。こうした取組を経て、平成 23 年 10 月の長期ビジョン審議会において、パブリックコメントによる県民意見を盛り込んだ全県ビジョン改訂案をとりまとめた。

【時代潮流を考える調査研究】

長期ビジョン推進委員会の開催（平成 19 年 4 月～平成 22 年 3 月）

- ・ 21 世紀兵庫長期ビジョンの推進とフォローアップ、ビジョンに係る調査研究等について幅広く意見交換（5 回開催）
- ・ 同推進委員会において、全県ビジョン改訂に係る中間報告をとりまとめ（22 年 3 月）

学識者による時代潮流研究会の開催（平成 19 年 4 月～）

- ・ 全県ビジョンの点検・見直しに向けて、学識者などで構成し、「豊かな暮らし」「世界化」「地域構造」の 3 テーマによる研究を実施

【地域の課題群に関するヒアリング調査】

地域づくりに関わる三百人ヒアリングの実施（平成 19 年度～平成 22 年度）

- ・ 「豊かな暮らし」「世界化」「地域構造」の 3 テーマで、NPO 団体や地域団体、企業などの活動の現場を訪問し、兵庫の未来を先取りする動きをつかむとともに地域が直面する課題群を掘り起こすヒアリングを実施（ヒアリング先の団体等の一覧は参考資料 3 - 3）

【フォーラム等の開催による幅広い県民意見の集約】

「兵庫みらいフォーラム」の開催（平成 21 年度～平成 23 年度）

- ・ 多様な世代の参加のもと、各地域が抱える課題を共有し、全県ビジョンの将来像と実現のための取組の方向を議論する場として開催

（開催実績）

（21 年度）H21.10 『2040 年地域の未来 兵庫の未来』（神戸・姫路・豊岡同時開催）180 人参加

H22. 2 『兵庫 2040 私たちの未来を考える』（播磨町）200 人参加

（22 年度）H22. 9 『夢交わる つながり・デザイン』（大学生による夢提案）（加東市）200 人参加

H23. 2 『兵庫を元気にする「つながり・デザイン」』（高校生による夢提案）（神戸）120 人参加

（23 年度）H23. 7 『「つながり」で描く地域の未来』（神戸）150 人参加

地域での出前ミニフォーラムの開催（平成 22 年度）

- ・ 県民局圏域の地域団体、実践活動家、NPO、市町などの参加を得て開催（5 回、146 人参加）

【さまざまな機会を通じた若い世代からの未来の兵庫や地域に関する夢提案募集】

- ・ 青年会議所（JC）と連携した子ども県議会参加中学生へのアンケート(22年7月)
- ・ 青年会議所会員への兵庫の将来像についてのアンケート(22年9月)
- ・ 「大学コンソーシアムひょうご神戸」と連携した大学生からの提案募集(22年10月)
- ・ 県内高校生(約1千人)からの提案募集(22年11～12月)

【長期ビジョン審議会におけるビジョン改訂案の審議】

- ・ 全県ビジョンの点検・見直しとして、今後の将来像、実現に向けた課題と重点方策を審議するため、長期ビジョン推進委員会を発展させる形で平成22年度に設置
(審議経過)
 - (22年度) 第1回総会(H22.7.1) 諮問
 - テーマ別会議(H22.12.1) 「持続する地域構造」に係る課題と重点方策
 - テーマ別会議(H23.3.8) 「豊かな生活」「世界の中の兵庫」に係る課題と重点方策
 - (23年度) 第2回総会(H23.5.26) 全県ビジョン改訂版原案の協議
 - 第3回総会(H23.8.17) 全県ビジョン改訂案の協議
 - 第4回総会(H23.10.25) 全県ビジョン改訂答申案の協議
 - 答申(全県ビジョン改訂案)を知事に提出(H23.11.14)

【パブリックコメントの実施】

全県ビジョン改訂案に対するパブリックコメントの実施

- ・ 意見募集期間：平成23年7月22日～平成23年8月11日
- ・ 意見等の提出件数：81件(50人)

【県議会での審議・議決(平成23年第311回定例会)】

- ・ 「21世紀兵庫長期ビジョン・全県ビジョンの見直し」議案提案(H23.12.2)
- ・ 原案可決(H23.12.14)

地域ビジョン

地域ビジョン委員会での検討

- ・ 第5期地域ビジョン委員を中心に、ビジョンの見直しについて、地域ビジョン委員会や同部会で幅広く意見交換を実施

地域ビジョンの点検・見直しに向けた「地域夢会議」の開催

- ・ 地域ビジョン委員、同委員OB、地域の活動団体等を巻き込んだ幅広い主体の参画により、地域像や取組方向の議論を深め、地域ビジョンの見直しに反映するため、「地域夢会議」を開催
 - (21年度) 各地域1回開催 延べ1,571人参加
 - (22年度) 各地域2回開催 延べ2,056人参加
 - (23年度) 各地域1回開催 延べ880人参加

長期ビジョン審議会委員（名簿）

（五十音順、敬称略）

氏名	職名等	就任期間
青木 芳信	丹波地域ビジョン委員会委員長	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
赤鹿 保生	中播磨地域ビジョン委員会委員長	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
井上 あい子	公募委員	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
井野瀬 久美恵	甲南大学文学部教授	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
岩成 孝	兵庫県連合自治会会長	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
上原 利信	兵庫県森林組合連合会専務理事	平成23年5月17日～ 平成24年3月31日
内田 勝雄	阪神北地域ビジョン委員会委員長	平成22年7月1日～ 平成23年5月16日
内堀 克子	阪神北地域ビジョン委員会委員長	平成23年5月17日～ 平成24年3月31日
大谷 敦子	生活協同組合コープこうべ理事	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
岡田 和隆	兵庫県身体障害者福祉協会理事長	平成23年8月1日～ 平成24年3月31日
岡田 眞美子	兵庫県立大学環境人間学部教授	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
小川 英一	兵庫県身体障害者福祉協会理事長	平成22年7月1日～ 平成23年7月31日
奥田 眞	ひょうごツーリズム協会理事長	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
尾崎 光雄	兵庫県町村会会長(市川町長)	平成22年7月1日～ 平成23年7月31日
梶山 卓司	神戸新聞論説委員長	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
加藤 恵正 (会長)	兵庫県立大学政策科学研究所長	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
角野 幸博	関西学院大学総合政策学部教授	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
川中 大輔	公募委員	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
神崎 壽福	北播磨地域ビジョン委員会委員長	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
木田 薫	淡路地域ビジョン委員会委員長	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
木田 聖子	公募委員	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
北野 美智子	兵庫県連合婦人会会長	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日
木村 和子	阪神南地域ビジョン委員会委員長	平成22年7月1日～ 平成24年3月31日

清川 とし子	兵庫県生活研究グループ連絡協議会理事	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
国枝 哲男	公募委員	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
小崎 恭弘	神戸常磐大学短期大学部准教授、ひょうごおやじネットワーク世話人	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
志智 宣夫	兵庫県商工会連合会副会長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
清水 勲夫	兵庫県青少年団体連絡協議会副会長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 23 年 1 月 31 日
杉原 左右一	大学コンソーシアムひょうご神戸理事長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 23 年 5 月 16 日
妹尾 美智子	神戸市婦人団体協議会専務理事	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
高木 利浩	兵庫県 PTA 協議会副会長	平成 23 年 8 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
武田 政義	兵庫県社会福祉協議会会長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
谷 亨二	兵庫県老人福祉事業協会副会長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
谷水 ゆかり	兵庫県 PTA 協議会副会長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 23 年 7 月 31 日
戸田 善規	兵庫県町村会会長(多可町長)	平成 23 年 8 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
富木 攻	東播磨地域ビジョン委員会委員長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
中川 孝之	兵庫県森林組合連合会理事	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 23 年 5 月 16 日
中島 克元	神戸まちづくり協議会連絡会事務局長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
中瀬 勲 (会長代理)	兵庫県立人と自然の博物館副館長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
中西 均	兵庫県商工会議所連合会専務理事	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 22 年 11 月 30 日
西垣 義嗣	公募委員	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
西門 義博	兵庫県私学総連合会会長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
西田 正則	兵庫県市長会会長(たつの市長)	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
西田 芳矢	兵庫県医師会副会長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
西村 文博	日本青年会議所近畿地区兵庫ブロック協議会副会長	平成 23 年 3 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
西山 安子	兵庫県子ども会連合会事務局次長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
能口 秀一	公募委員	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
野々山 久也	甲南大学名誉教授、ひょうご震災記念 21 世紀研究機構研究統括	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
登里 倭江	兵庫県いずみ会会長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日

服部 良子	大阪市立大学大学院生活科学研究科准教授	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
浜田 充	兵庫県農業協同組合中央会専務理事	平成 23 年 8 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
濱名 篤	大学コンソーシアムひょうご神戸理事長	平成 23 年 5 月 17 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
林 敏彦	同志社大学大学院総合政策科学研究科教授、ひょうご震災記念 21 世紀研究機構研究統括	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
福岡 誠行	兵庫県自然保護協会理事長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
藤原 進之助	但馬地域ビジョン委員会委員長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
フリッツ・レオンハート	神戸外国倶楽部元会長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
鮑 悦初	神戸華僑総会会長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
増田 大成	ひょうご農業クラブ理事長	平成 23 年 2 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
松本 恵一	日本青年会議所近畿地区兵庫ブロック協議会副会長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 23 年 2 月 28 日
三木 久和	兵庫県農業協同組合中央会専務理事	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 23 年 7 月 31 日
三澤 泰士	兵庫県老人クラブ連合会会長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
水野 雄二	神戸 YMCA 総主事	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
村田 泰男	兵庫県商工会議所連合会専務理事	平成 22 年 12 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
室崎 益輝	関西学院大学総合政策学部教授、ひょうごボランティアプラザ所長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
森本 洋平	日本労働組合総連合会兵庫県連合会会長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
矢田 立郎	神戸市長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
山口 徹夫	兵庫県漁業協同組合連合会専務理事	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
山下 淳	神戸地域ビジョン委員会委員長、関西学院大学法学部教授	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
山本 建志	西播磨地域ビジョン委員会委員長	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日
米山 清美	NPOと行政の子育て支援会議代表幹事	平成 22 年 7 月 1 日 ~ 平成 24 年 3 月 31 日

創造と共生の舞台・兵庫



21世紀兵庫長期ビジョン
2040年への協働戦略
全県ビジョン

〔 策定 2011年（平成23年）12月 〕

事務局（連絡先）：企画県民部ビジョン課

〒650-8567 神戸市中央区下山手通5丁目10番1号

電話：078-341-7711（代）

FAX：078-362-3950

E-mail：vision@pref.hyogo.lg.jp

ホームページ：http://web.pref.hyogo.jp/pref/cate3_615.html